

2021年度（令和3年度）事業報告

5つの公益事業（教育研修事業、学術調査研究事業、国際協力活動事業、出版・情報サービス事業、共通事業）は大原記念労働科学研究所に付託された使命である。

2020年度に引き続き、基本的に研究部職員は在宅、総務部職員は在宅＋ローテーションで勤務を継続した。

所内会議や委託先組織、共同研究者、政府委員会、海外との打ち合わせ、教育研修、調査、所主催イベントも、web会議システムを用いることで効率的かつ活発に実施することが出来た。

一方、実地、対面で行う必要がある調査や実験、研修に関しては、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、慎重に実施した。

さらに、百周年に関する記念事業は多方面からのご協力を得て概ね実施を終えた。

以下、事業別に主な成果を示す。

I. 教育研修事業

「産業安全保健エキスパート」養成コースは、COVID-19の影響を考慮して中止した。

安全運行サポーター育成教育プログラムは、自動車運行における過労運転防止・健康起因事故を未然に防止することを主たる目的として、運送事業者、安全運転支援装置開発メーカー、学術研究機関等が一体となった管理支援システム「体調予報®」を構築・事業化するため、安全運行サポーター協議会2021年度定時総会および附属イベント、あんサガ会員交流会を実施した。また、トラック事業者のドライバーを対象とした実証実験とデータの分析を進めた。

桜美林大学において「企業活動と労働環境」を、桜美林大学大学院において「職業倫理」を実施した。2022年度からのインターン受け入れのための検討を行った。

大原記念労働科学研究所主催のセミナーとして、ワークショップを3回、オンラインで実施し、各地からの参加者を得た。

その他、地方自治体、大学、企業、団体からの依頼を受け、研修会、講演に研究者を派遣した。一部はオンラインで実施した。

II. 学術調査研究事業

2021年度は新型コロナ感染症の拡大状況における事業実施方法の開発も進み、実態調査、技術開発を盛んに実施した。

競争的研究資金についても、文部科学省科学研究費は9件（継続・延長7件、新規2件）が採択された。また、他機関の研究者の研究分担が6件あった。

厚生労働科学研究費としては、分担研究として「令和3年度労災疾病臨床研究」が採択された。その他、日本損害保険協会自賠責運用益抛出事業（自動車事故防止対策）として、「運転者の健康管理を支援する「体調予報」システムに関する基礎的検討」が継続して採択された。

これらを通じて、外部研究者とのネットワークを構築しつつ、新しい調査研究方法論の展開を促進した。

III. 国際協力活動事業

国際労働機関（ILO）、国際協力機構（JICA）などと協力し、当所が蓄積してきた知見を海外、特に新興国に展開した。

COVID-19の影響で現地に渡航することが全く出来ず、活動は困難であったが、web会議ツールなどを活用して推進することが出来た。

IV. 出版・情報サービス事業

学術誌「労働科学」及び普及誌「労働の科学」を発行した。

安定かつ持続的に発行するために発行体制と発行数を修正した。発刊の遅れは改善傾向にある。

V. 共通事業

関係各所の協力を得て、百周年記念事業（「働き方の未来を50人が読む」調査、「倉敷プロジェクト」、「桜美林学園との連携」）を企画・実施した。これにより、維持会とのコラボレーション、地域との連携構築、産学連携の強化を図ることが出来た。これらの活動の結果は、出版物「労働の科学」や研修所webサイト、維持会サロンにおいても発信した。

また、研究の場の確保と成果の普及のために、労働科学研究所維持会活動の活性化を推進した。維持会サロンを秋・春にオンラインで開催し、各地からの参加を得た。さらに、個別の維持会員への活動報告と意見交換を行なう体制を構築し、コミュニケーションの促進を図った。

VI. 広報・マーケティング

他機関と連携して、広報・マーケティングを進めた。

また、労働科学研究所のwebサイトで百周年記念事業に関する情報の公開を行った。

維持会員の要望の把握と、その対応を促進する体制を構築した。

VII. 産学協働

学校法人桜美林学園との連携強化をさらに促進し、「企業活動と労働環境」（学部）、「職業倫理」（大学院）という科目名で労働科学に関する授業を開講した。

また、「日本労働科学学会」の活動として、年次大会、部会を2回、産業現場の状況をお教え頂く「イブニングセッション」を11回実施するなど、活発に活動を行った。

2021年度（令和3年度）事業報告 附属明細書 2021年4月～2022年3月の主要な事業活動の概要

5つの公益事業（教育研修事業、学術調査研究事業、国際協力活動事業、出版・情報サービス事業、共通事業（維持会活動））は当法人に付託された使命であり、積極的な推進に努めている。この公益5事業については2018年度に策定した中期計画「ビジョン2021」の4分野に沿った形で整理し事業計画を立案し実行した。

「ビジョン2021」4分野

		研究	経営	VI.広報・マーケティング	VII.産学協働
公益5事業	I. 教育研修	◎	○	◎	○
	II. 学術調査研究	◎	○	◎	○
	III. 国際協力活動	○	○		
	IV. 出版・情報サービス	○	○	◎	
	V. 共通事業	○	◎	○	

◎：強い関係があるもの

○：関係があるもの

また、公益5事業を推進するためのVI.広報・マーケティング、VII.産学協働に関してもプロジェクトを精力的に実行した。

特に重点事業として遂行を目指す事業は以下の4事業である。新型コロナウイルス感染症の影響を含め、労働を取り巻く環境は急激に変わりつつある。デジタル化や新技術の導入による自動化、遠隔化、多様化といった変化に注目し、多様な背景を持つ人々が安全・健康で人間らしく働けるよう調査分析を行うことで、社会に貢献することを目指している。

- 働く人々・働く場の多様化に関する研究
- 現代労働者の疲労と疲労管理に関する研究
- 産業構造の変化に対する研究
- 産業安全保健の新しい教育の実践

また、webサイトを活用した情報提供を促進した。

さらに、百周年記念事業を軸として、維持会活性化、産学協働、新規事業開拓を進めた。

I. 教育研修事業

学術調査研究事業において得られた知見を基に、産業現場での実践を進めるために、企業からの要請に応じて、講習会、セミナー、研修等を企画・実施した。

重点事業

1. 「産業安全保健エキスパート®」養成コースの開講と「産業安全保健エキスパート」との協働事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年度から「産業安全保健エキスパート養成コース」は開講出来ていない。2021年度は講義・実習の内容や方法に留まらず、桜美林大学・大学院、山陽技術振興会など他機関との協働も含めて在り方について検討を進めた。

2. 安全運行サポーター育成教育プログラム

自動車運行における過労運転防止・健康起因事故を未然に防止することを主たる目的として、運送事業者、安全運転支援装置開発メーカー、学術研究機関等が一体となった管理支援システム「体調予報®」を構築し、運行の安全を担う人材を育成する教育・イベントを実施した。また、実証研究においてデータの分析を進めた。

- 2021年7月8日（木）13:30～16:50 安全運行サポーター協議会2021年度定時総会および附属イベントをオンラインで開催した。38会員の内、出席および委任状・議決権行使書の提出合わせて、23会員の参加があった。総会の部（13:30～14:30）では、2020年度の活動報告と会計報告のあと、2021年度の活動計画と予算案が説明された。活動計画では、2020年度に引き続き新型コロナ禍の影響を受けており、「体調予報」の実用化を進めるのが困難であるが、日本損害保険協会助成金によって基礎的なデータ収集と分析を進めること、会員同士の交流を促進するために新ワーキンググループを設置すること等が承認された。続いての特別講演の部（14:40～15:40）では、服巻雅子氏（保健師、OHサポート株式会社）より、「コロナ禍における従業員の健康管理～心と体の健康づくりのポイント～」と題した講演を頂き、現場での対応のノウハウを示した実践的な内容に参加者から多くの反響があ

った。最後のワークショップの部（15：50～16：50）では、オンラインシステムのグループワーク機能を用いて、新型コロナ禍下における健康管理、健康行動推進をテーマとしたディスカッションとその結果の発表を行った。

- 2021年10月28日（木）17：00～18：30 「第1回あんサボ会員交流会」を開催した。本会は、運輸現場の実態やドライバーの健康や安全に係わる情報を共有し、会員間の交流を図り、運輸業における安全・健康の推進を目指すものである。あるトラック事業者のこの1年の安全・衛生・経営に関する活動、運転中の眠気に関する基礎知識、血圧計による健康管理のポイントについての情報提供があり、活発な総合的ディスカッションとなった。
- 2022年2月24日（木）15：00～16：40 「第2回あんサボ会員交流会」を開催した。第2回では、あるバス事業者のコロナ禍以前から進めてきた健康管理、安全運管理に関する活動、足柄SAなど7か所のSAにおけるETCデータに基づくトラックの動向分析、ドライブレコーダー、デジタルタコグラフの活用例の情報提供があり、活発なディスカッションが行われた。
- 日本損害保険協会助成金による実証研究では、後期の測定が進み、協力いただけた被験者数は200名を超えた。収集されたデータの分析を進めた。

3. 大学とのコラボレーション

大学等と連携し、「企業組織」「高齢者対策」「産業安全保健の基礎」「新技術の活用」等をテーマとした研究を進めた。

- 桜美林大学において「企業活動と労働環境」を前期授業として実施した。
- 桜美林大学大学院において「職業倫理」を後期授業として実施した。
- 桜美林大学、大学院からのインターン受け入れについて検討した。

継続事業

1. 労働科学研究所認定の「産業安全保健エキスパート（248名）」との共同新規事業について検討した。
2. 労働科学研究所主催のセミナー等のイベントを開催した。感染予防と幅広い参加者の獲得のため、リモートで実施した。
 - テレワークシリーズその1
テレワークを支援する技術と労務管理：静谷隆臣氏（株式会社大塚商会地域プロモーション部）、奥田エリカ氏（社会保険労務士法人HRビジネスマネジメント）
5月27日（木）17:30～19:30、オンラインにて実施。
 - ワークショップその1
ヒューマンエラーは罪に問えるか：井上枝一郎（大原記念労働科学研究所 主管研究員）
2021年6月15日（火）17：30～19：30、オンラインにて実施。
 - テレワークシリーズその2
テレワークにおけるコミュニケーション：「ハイブリッドワーク時代の働き方、働く場」浅田晴之氏（株式会社オカムラ ワークデザイン研究所）、「ハイブリッドワークにおけるコミュニケーション」高原良氏（株式会社TATAMI）
9月17日（金）17:30～19:30、オンラインにて実施。
3. 産業現場における各種課題を解決するための教育研修の開発と実施を行った。オンラインツールの活用など、withコロナに対応した方法の開発も進めた。2021年度よりも増加した。
 - ミラクシアエッジテクノロジー社「眠気表情評定教育」
 - マークラインズ社「眠気表情評定教育」
 - パナソニック「眠気表情評定教育」
 - 北海道庁「職場ドック」（職場メンタルヘルス1次予防活動）
 - 川崎市「給食場巡視」
 - 川崎市「安全衛生研修」
 - 川崎市「メンタルヘルス対策」
 - 日本原子力発電株式会社「ヒューマンファクター基礎コース」
 - 日本原子力発電株式会社「ヒューマンファクター応用コース」
 - 日本原子力発電株式会社「運転管理者コース（コミュニケーション）」
 - 三菱重工業株式会社「新任管理監督者研修（ヒューマンファクター）」
 - 日本能率協会「安全文化」
 - 株式会社かんでんエンジニアリング「ヒューマンファクター」
 - 自動車技術総合機構「初任者安全衛生研修」
 - 全日本トラック協会「過労死防止フォローアップWG」
 - 東京電力ホールディングス株式会社「新任安全スタッフ研修」
 - 川崎市「メンタルヘルスの一次予防対策」
 - 西日本旅客鉄道株式会社「第8回ヒューマンファクターシンポジウム」パネリスト
 - 株式会社ぎょうせい「公務災害（労働災害）を防ぐために知っておきたい事」
 - 株式会社オーグス総研「労働災害調査方法レクチャー」
 - 株式会社原子力安全システム研究所「安全文化評価に対するコメント」
 - 中部電力株式会社「運行管理者補完教育」
 - 東京電力ホールディングス株式会社「安全品質担当者ヒューマンファクター実地研修」

II. 学術調査研究事業

「ビジョン2021」及び「中期研究戦略2020-2024」に基づき以下の事業を行った。新型コロナ感染症の拡大による影響に着目して研究を行いつつ、postコロナに向けて今後の研究戦略の検討を進めた。その中で、これまで着手していない課題や産業分野への展開方法についても検討を行った。

重点事業

1. 新技術の産業への適合・有効性・将来性の研究

- 日本学術振興会科学研究費「歩容分析を用いた熱中症客観指標の確立の提示」
- 日本学術振興会科学研究費「ヒューマンエラーの発生機序に関する実証的研究-ヒューマンエラーの瞬間をとらえる-」

- 名古屋市大「ウェアラブル等現状調査」
2. 過労実態の調査と管理方法に関する研究
 - 厚生労働科学研究費補助金分担研究「令和3年度労災疾病臨床研究」
 3. 組織間関係におけるリスクの抽出と低減方策の開発
 - 日本学術振興会科学研究費「安全文化を向上させる活動を阻害する要因の検討」
 4. 障がい者の雇用促進と自立労働の設計に関する研究
 - クラレ財団「知的障がい者の就労支援に関する調査研究」

継続事業

1. 実態調査
 - 日本学術振興会科学研究費「生活場面から就業場面への円滑な移行を意識した学生向け安全衛生教育の実践と評価」
 - 日本学術振興会科学研究費「スマートフォン利用は頸部痛の真の原因か？：学際チームによるパラドックスの解明」
 - 大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院「共同研究（医療従事者の働き方実態調査）」
 - 若狭原子力技術シニアコンサルティング株式会社「廃止措置業務のマネジメント向上に関する調査」
 - 関西電力株式会社「安全の取組み等に関する全社アンケート調査」
2. 新技術による改善
3. 技術開発
 - 三菱電機株式会社「車内ディスプレイに関する実験的研究」
 - 株式会社ジェイテクト「筋電図等によるアシストスーツの評価」
 - 東京電力ホールディングス株式会社「安全活動における新たなスキーム構築」
 - 株式会社原子力安全システム研究所「組織の安全文化の自己評価に関する検討」
 - J-POWERハイテック「事故報告データを活用した予防的対策のための事故評価手法の開発」
 - ミラクシアエッジテクノロジー社「眠気表情評定」
 - 埼玉県環境検査研究協会「筋電図等によるアシストスーツの評価」
4. 競争的資金採択と申請
 - 4-1. 機関対象（継続中）1件
 - 日本損害保険協会自賠責運用益抛出事業（自動車事故防止対策）：「運転者の健康管理を支援する「体調予報」システムに関する基礎的検討」
 - 4-2. 機関対象（申請検討中）
 - 4-3. 研究者個人対象
 - 日本学術振興会 科学研究費補助金（代表7件、分担6件）
 - 4-4. 申請中
 - 日本学術振興会 科学研究費補助金（代表2件申請、2件採用決定）

Ⅲ. 国際協力活動事業

当所が蓄積してきた知見を海外、特にアジア地域をターゲットに展開した。また、海外での先行知見を吸収し、国内での応用を図った。そのために以下の事業の実施を進めた。

1. 労働安全衛生政策・法案の作成支援
 - 国際労働機関（ILO）電子廃棄物処理者の安全衛生マニュアル（ナイジェリア）
2. 労働安全衛生に関する研修の実施
 - JICAマレーシア事務所・マレーシア労働安全管理局「アジア諸国向け労働安全衛生管理」
 - JICA/中央労働災害防止協会「政府労働安全衛生担当者研修」
3. 在外企業の安全衛生活動支援
 - 海外産業人材育成協会（AOTS）「経営者団体向け労働安全衛生研修」

Ⅳ. 出版・情報サービス事業

出版事業として、学術誌「労働科学」及び普及誌「労働の科学」の定期発行を推進し、学術的成果と産業現場で応用可能な知見の普及を目指すため、体制と発行の在り方を見直した。

重点事業

1. 百周年記念事業のページを作成するなど、webを用いた発信を行った。
2. 出版事業の担い手の世代交代と支援体制を構築し、魅力ある企画立案とともに継続可能な体制整備に取り組んだ。

継続事業

1. 出版刊行

- 普及誌「労働の科学」：第76巻3号【「新しい生活様式」での熱中症の予防と対策】、4号【東日本大震災から10年—今、考えること】、5号【産業博物館を訪ねてモノたちの語らに耳をすまそう！】、6号【働く女性にエールを送ろう】、7号【多様性を認め合い、より豊かに生きるために】、8号【人生100年時代、生涯現役を目指して】、9号【大原記念労働科学研究所創立100周年記念企画「働き方の未来を50人が読む」第1回調査報告】、10号【デジタル化時代の働き方を考える】、11号【専門図書館へ行こう！図書館のちから(3)】、12号【創立100周年記念特別号】、第77巻1号【コロナ禍に負けない新しい生き方を目指して】、2号【SDGsと地域企業—100周年記念倉敷シンポジウムから】、3号【多様な視点から防災について考える】を刊行した。
- 学術誌「労働科学」：第96巻3/4号、5/6号、第97巻1号を発行した。第97巻2号の発刊を準備した。

2. 情報サービス活動

- 2018年度～2019年度にかけて実施したwebサイトのシステム改修をベースとして、更にwebサイトのアクセシビリティ、コンテンツの質を向上させるための検討を開始した。
- アクセス数などの指標の検討、他機関を含めたメールマガジンの活用などの方策について検討した。

V. 共通事業

百周年記念事業、維持会活動、「労研デジタルアーカイブ」の普及を行った。

重点事業

1. 百周年記念事業

1-1. 「働き方の未来を50人が読む」

- 4月に調査を実施し、7月1日に分析結果の速報版（概要）を研究所webページにて公開した。
<https://www.isl.or.jp/anniversary/anniversary2.html>
- 詳細報告書を普及誌『労働の科学』第76巻9月号、秋の維持会サロンで公開した。
- 第2回調査を企画した。

1-2. 地域との連携（倉敷プロジェクト）

- 大原孫三郎・総一郎記念講演会 10月7日（木）18：00～20：30
倉敷公民館にて公益財団法人有隣会と共催（テーマ「わしらの眼は（100）年先が見える」）
基調講演：江上剛氏「百年先が見えた男—大原総一郎」、シンポジウム「大原孫三郎の思いを紡ぐ労働科学研究所—SDGsと地域企業—」坂本恒夫所長「研究所の現代的存在価値」、北島洋樹副所長「人と機械と労働」、余村朋樹研究部長「人と組織と地域」
- 講演とシンポジウムの内容は労研webサイトで録画を配信中（倉敷ケーブルテレビより提供）
- 講演会の概要は『労働の科学』第76巻12号（100周年記念特別号）に掲載
- 江上剛氏の基調講演は『労働の科学』第77巻3号に掲載
- シンポジウムの詳細は『労働の科学』第77巻2号に掲載

1-3. 産学協働

- 桜美林学園および大原記念労働科学研究所創立100周年記念鼎談
シンポジウムを共同開催（テーマ「100周年に学びつついまと未来を語る」）
6月26日（土）日本労働科学学会第2回年次総会 明治大学駿河台キャンパス（オンライン開催）
桜美林学園・小池一夫理事長、大原記念労働科学研究所・濱野潤理事長、司会：日本労働科学学会・酒井一博会長
- シンポジウムの詳細は『労働の科学』第76巻12号（100周年記念特別号）に掲載

2. 各種イベント

秋・春の維持会サロン、ワークショップを企画・実施した。

- テレワークシリーズその1
テレワークを支援する技術と労務管理：静谷隆臣氏（株式会社大塚商会地域プロモーション部）、奥田エリカ氏（社会保険労務士法人HRビジネスマネジメント）
5月27日（木）17:30～19:30、オンラインにて実施。
- 労研研究者によるワークショップその1
ヒューマンエラーは罪に問えるか：井上枝一郎主管研究員
6月15日（火）17：30～19：30、オンラインにて実施。
- テレワークシリーズその2
テレワークにおけるコミュニケーション：「ハイブリッドワーク時代の働き方、働く場」浅田晴之氏（株式会社オカムラワークデザイン研究所）、「ハイブリッドワークにおけるコミュニケーション」高原良氏（株式会社TATAMI）
9月17日（金）17:30～19:30、オンラインにて実施。

その他継続事業

1. 維持会サロン

- 秋の維持会サロン
2021年11月1日（月）17：30～19：30「働き方の未来を50人が読む」調査結果の報告と維持会員とのコラボレーションを探る
報告：酒井一博主管研究員、話題提供：永見孝氏（トヨタ自動車株式会社）、多田恵氏（株式会社かんでんエンジニアリング）
オンラインにて実施した。
- 春の維持会サロン
2022年3月15日（火）17：30～19：00 特別講演「会長が語る企業経営と安全」-株式会社クラレの安全活動の事例紹介を通じて- 伊藤正明氏（株式会社クラレ取締役会長）
オンラインにて実施した。

2. 維持会員とのコミュニケーションの推進

- 所内体制を構築した上で、活動状況を報告し研究所の理解を深めて頂くとともに、維持会員の要望を把握し、今後の活動に反映するための意見交換会を実施した。維持会担当者のみならず、原則的に全ての研究者が参加し、相互理解を図った。

VI. 広報・マーケティング

外部有識者の助言を得つつ、広い視野で活動を進めた。

1. 双方向性を重視し、維持会員のニーズを把握し、それに応える活動を進めた。
2. 維持会員とのコミュニケーションを促進し、産業現場の抱える問題を把握し現場の知見を得て、労研の経験やノウハウを分かり易く伝え、提供できるようコンサルティングに取り組んだ。
3. 経営資源の棚卸を行い、経営資源の特性に応じた広報・マーケティングを検討した。
4. 労研と補完関係を持つ他機関と連携して、広報・マーケティングを進めた。
5. webを積極的に活用して広報を行った。
6. webサイトに百周年記念事業のページを作成し、各プロジェクトに関する情報を公開した。

VII. 産学協働

学校法人桜美林学園との連携強化をさらに促進した。

1. 桜美林大学ビジネスマネジメント学群における学部生向け講義（「企業活動と労働環境」）を2020年度に続き、前期に開講した。
2. 桜美林大学院経営学研究科における院生向け講義（「職業倫理」）を後期に実施した。
3. 発足2年度を迎える日本労働科学学会における研究活動の深化と学会の発展を支援した。
4. 日本労働科学学会年次総会、部会、現場と語るイブニングセッションを継続開催した。
 - 第2回イブニングセッション「在宅勤務の実情と社労士事務所に寄せられる最近の相談事例」平澤貞三氏、菅原由紀氏、奥田エリカ氏（社会保険労務士法人HRビジネスマネジメント）
4月15日（木）18:00～19:30オンライン実施
 - 第3回イブニングセッション「障がい者雇用促進への取り組み～作業所運営の経験と共有知に～」藤波 智氏（株式会社クラレ/一般財団法人クラレ財団）
5月13日（木）18:00～19:30オンライン実施
 - 日本労働科学学会第2回年次大会6月26日（土）オンライン実施
『デジタル化時代の働き方』：坂本恒夫所長司会、Matthias Kipping（シュリッヒ・ビジネススクール、トロント大学教授）、小野治氏（明治大学理工学部教授）、平澤貞三氏（社会保険労務士法人HRビジネスマネジメント所長）、坂田淳一氏（桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授）
『桜美林学園および大原記念労働科学研究所創立100周年記念鼎談』酒井一博主管研究員司会、小池一夫氏（桜美林学園理事長）、浜野潤理事長
 - 第4回イブニングセッション「「サイカイ」は社会によって構築される？～看護現場の実情から見えること、考えること～」中島美津子氏（東京医療保健大学東が丘看護学部・大学院看護学研究科）
6月17日（木）18:00～19:30オンライン実施
 - 第5回イブニングセッション「建設業における安全」川野政彦氏（株式会社J-POWERハイテック）
7月15日（木）18:00～19:30オンライン実施
 - 第6回イブニングセッション「コロナ禍をチャンスに変える？倉敷国際ホテル」鳥生雅夫氏（株式会社倉敷国際ホテル）
9月16日（木）18:00～19:30オンライン実施
 - 第7回イブニングセッション「行動災害防止のための当社の模索」朱宮徹氏（日本製鉄株式会社）
10月14日（木）18:00～19:30オンライン実施
 - 第8回イブニングセッション「エンターテインメント業界における労働的課題」山口有次氏（桜美林大学ビジネスマネジメント学群）
11月18日（木）18:00～19:30オンライン実施
 - 日本労働科学学会秋部会12月11日（土）オンライン実施
『アメリカにおける企業主導の徒弟制度の成立、再考』平沼高氏（明治大学）、『大学生の就業意識調査-多様な働き方を中心に-』坂本雅明氏・川崎昌氏（桜美林大学）、『文系大学生の安全意識調査と今後の取り組み』椎名和仁氏（住友電設（株））、『プロジェクト研究の経過および取り纏めの方向について』
 - 第9回イブニングセッション「安全・健康経営の取り組みとアフターコロナに向けて」平山幸司氏（WILLER EXPRESS株式会社）
12月16日（木）18:00～19:30オンライン実施
 - 第10回イブニングセッション「ヘルスケアベッドメーカーから見たヘルスケア環境の課題と将来の方向」坂本郁夫氏（パラマウントベッド株式会社）
2022年1月13日（木）18:00～19:30オンライン実施
 - 第11回イブニングセッション「呼吸用保護具の災害防止に果たすべき役割と市場動向について」篠宮真樹氏（興研株式会社）
2月17日（木）18:00～19:30オンライン実施
 - 第12回イブニングセッション「新型コロナ対策 オミクロン株とどう向き合うか」和田耕治氏（国際医療福祉大学 医学部公衆衛生学）
3月17日（木）19:30～21:00オンライン実施

以上の事業計画を実行するため、研究所の改革を進め経営インフラを整えるとともに財務体質の改善を進めた。